

## 指導教員によるコメント

佐々井さんは、博士課程論文で、中世後期の都市ロンドンにおける、商工業者が取り結んださまざまな社会的結びつきを明らかにすることで、中世都市社会の特質を浮き彫りにしようと考えています。人と人とのつながりは人間社会に普遍的に存在しているものですが、そのありかたは時代や地域によってさまざまに異なっていて、それぞれの時代・地域の特徴を形作るものとなっていると考えられるからです。西洋中世社会の研究においては、これまで都市商工業者の政治・経済的結びつきについて関心が集まり、多くのことが明らかにされましたが、宗教的な結びつきや地域に基づく相互扶助など、都市民による他の結びつきについてはまだあまり明らかになっていません。佐々井さんは、同業者組合を持つ刃物職人と、同業者組合を持たなかった絹加工業女性職人に着目し、ギルド史料だけでなく裁判関係文書や遺言書史料などさまざまな史料を用いて比較議論することで史料の間隙を埋め、全体像を浮かび上がらせようとしています。今回の学生海外調査研究による支援を得て、佐々井さんは、ロンドン大学に2009年に提出した修士論文で扱った刃物職人ギルドの史料を補完する、その他の史料調査を行うことができました。これにより、既に刊行されている絹加工業女性職人（シルクウーマン）に関する佐々井さんの研究と比較考察を行うために必須の史料調査が可能となったのは誠に喜ばしいことであり、博士課程論文の核心部分の研究が可能となりました。また、海外調査の折りに、欧米の第一線研究者と交流し、中近世研究のメジャーな雑誌である *Journal of Medieval and Early Modern Studies* に論文掲載が決定したことは大きな成果であり、視点のユニークさが世界に認められた証であると考えます。

新井 由紀夫（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 教授）